

	<p>第291号 2013年 7月 1日 発行 富山市内幸町3-22菅谷ビル4階 新日本スポーツ連盟 富山県連盟 電話 &FAX 076-441-0541 発行所 荒井英治</p>
--	--

反核平和マラソンin富山 *Peace Run 2013*

石川のランナーへしっかりとタスキを引き継ぐ



↑ 砺波一小矢部間の街道を快調に走行

富山と石川のランナーのみなさん→



2013年反核平和マラソンは6月15日(土)、砺波市役所から石川県境の天田峠を下った九+折の引継地点までの約20Kmで実施されました。

この日、明け方は雨雲が低く垂れた曇り空で、スタートの8時40分には、少し小雨がぱらついてきました。けれども、前日までの日照り続きの酷暑で、ランナーの熱中症を心配していたことを思えば、まさに恵みの雨でした。(砺波警察署へ道路走行の許可証を受け取りに行った前々日も、担当の署員がしきりにその事を心配していた程の長期の日照りが続いていたのです。)ランナー達も気持ちは同じだったようで小雨の中を楽しげな表情でランニング。

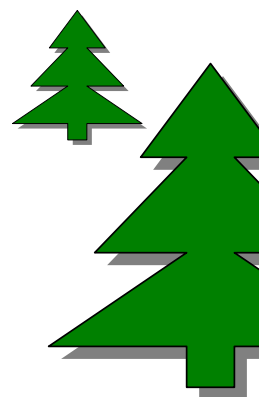
沿道の樹木や野菜や水田の早苗も生き返ったようで、我々と同じに天の恵みに感謝しているようでした。今年の参加者は、ランナーは7名、ボランティアは7名でした。

スタートから引き継ぎ地点まで、時折小雨がぱらつく中、途中の5箇所の休憩ポイントで水分補給をしながら天田峠の長い坂も乗り越えて走りぬき、待ち受けている石川県のランナーにタスキを繋ぎました。

この反核平和マラソンは富山県では始めてから19回を迎え、継続の重みが伝わる催しとなっています。来年も実施しますので今年参加できなかった人もぜひ参加してみてください。

6 月 度 富 山 パ ー ク ゴ ル フ 会 ・ コ ン ペ 結 果

	氏名	o u t	i n	グ ン	H C	ホ 外
優勝	黒川 鉦三	2 9	2 9	5 8		5 8
	木谷 鐵太郎	3 2	2 9	6 1		6 1
	法土 武雄	3 2	3 4	6 6		6 6
ブービー賞	関井 弘	3 8	3 7	7 5		7 5
	加藤 日出子	4 0	3 7	7 7	- 2	7 5
	(初出場)					



東日本大震災義援金 5名×100円=500円 供出
2013年度累計 2,800円

7月例会は 7月3日(水)、 7月20日(土)

いずれも、富山市パークゴルフ場にて、午後1時集合・組み合わせ抽選の後スタートします。

8月は 1泊例会 婦中町いこいの村を予定しています。 報告 木谷 鐵太郎

里山歩きの楽しみ

荒井英治

4月までの早朝散歩は主に雑木林の中の山道、林道、送電線の点検作業道を歩くことが多いのですが、5月に入ると田植後の水管理で、田圃周りの農道や畦道を歩くことが多くなります。

6月になると早苗もしっかりと根付き、分株も盛んになって水田の緑が濃くなり、早くも夏を予感させます。水田エリアの小動物たちのライフサイクルが活発に廻りだし、様々なドラマが展開されているようです。蜘蛛、オタマジャクシやアマガエル、ザリガニ、トカゲ、ヘビ、ガマ(食用ガエル)など、そしてそれらを食するカラス、ツバメ、サギやハクビシンなどがそれぞれに命を繋ぐ為の営みを、食物連鎖の構図の中で繰り返しています。散歩していて目に付くのはザリガニと蛙の食い散らかされた遺骸です。これは、サギかハクビシンの仕業かと推測していますが、その場面をみていないのでわかりません。人間に殺傷された遺骸も時々ま出会うこともあります。車に潰されたモグラや蛙やヘビ、草刈機の高回転刃に当たって傷つき命尽きたカエルやモグラ。こころ癒す水田風景と惨いキリングフィールドの世界が共存しているようです。

私もどれだけの命を奪ってきたかわかりません。10年余り前に草刈機で職場の敷地内の広い草斜面を刈り払っていた時、午前と午後の2回もヘビを殺してしまったことがありました。午前は腹に卵の袋を抱えた大きなメスの蛇、午後は未だ小さな子供の蛇でした。回転刃に胴体を切り裂かれた大きなメスの蛇が、卵の袋や内臓を引きずりながら苦しんでいるのを見て、一瞬、草刈機をもう一度使って楽にしてやりたい衝動が私に起こってきました。とても見るに絶えなかったのです。でもそれもできずに、その場を離れました。『早く死んでくれ』とただそれだけ思って。その後、その場所へ戻ってみるとヘビの姿はなかったのでどこかの草陰まで移動して絶命したものでしょう。少しほっとしたような気がしたのを覚えています。運の悪いときはあるもので、その半月後に今度は自分とところの田圃のあぜ草を刈っていて、またヘビを殺傷してしまいました。

そのとき以来、私はへびにある種の負い目を抱くようになってきて、へびを無闇に恐れたり嫌がったりすることが無くなってきたのです。 ちょっと矛盾しているように思われるかもしれませんが事実そうなのです。 へびに出会うと、嫌がって遠ざかるか、逆に強がってへびを振り回して見せる者もいますが、自分の場合は、同じ命を繋いでいる同等な仲間のような気がしてくるのです。 へびに限らず、カエルも鳥たちも自分たち人間も含めて、皆対等な生き物のよう思うことがあるのです。 何の格付けも、等級もない、平等な『いのち』と思えてくるのです。

次の写真はいつもの散歩道の同じ場所で見かけたカモシカの写真です。 上が2013. 3. 15の朝のもの。下が2013. 3. 28の朝のもの。 はぐれカモシカにも彼女ができたのでしょうか？

